

① 大きなコンテナターミナル

これからは国際交流がもっと進んで、世界各国との人の行き来や品物の売り買いが今よりもさかんになることが予想されます。またアジアの国々に新しい港がつくられ、コンテナの取りあつかいで、これらの外国の港との競争が激しくなってきました。

増え続ける貨物をうまく取りあつかうために、もっと大きくて便利な夢洲コンテナターミナルを作りました。夢洲は大阪港の船の出入り口に近くて、大きなコンテナ船も着くことができます。ここでは、1年間に100万TEU以上(→28ページ)のコンテナを取りあつかうことができ、この数は大阪港全体のおよそ半分になります。

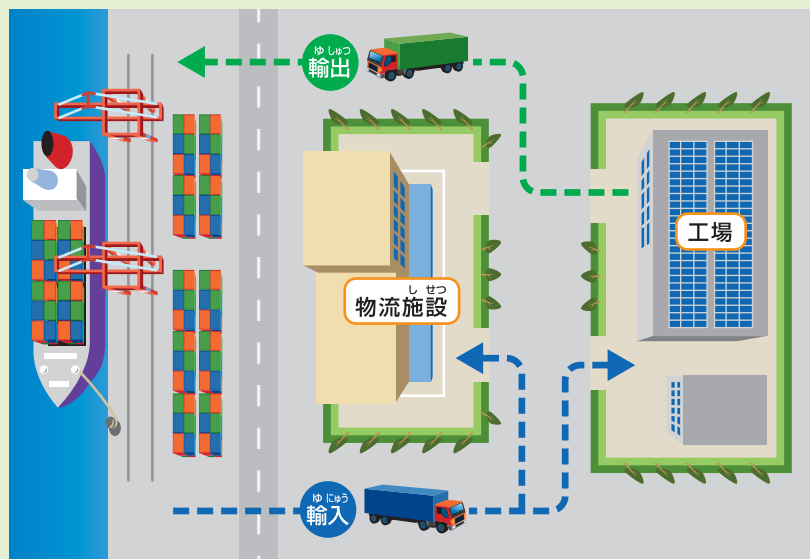


夢洲コンテナターミナル

② 産業(物をつくる仕事)・物流(物を運ぶ仕事)の拠点(たいせつな場所)

夢洲コンテナターミナルのすぐそばに、貨物の輸送や保管、荷役(貨物の積み降ろし)、包装、流通加工(名札付けやラベルはり)をする大きな基地をつくります。

また、太陽の光を使って発電をする装置や性能の高い電池など、環境を大切にするための高度な技術が必要な製品をつくる工場をここに集めることをめざします。



(イメージ)



品物を行き先ごとにふり分ける設備



舞洲の物流施設